

2005年7月8日

世界トップクラスの大学が戦略的パートナーシップを結成

東京大学は、アジア、オーストラリア、ヨーロッパおよびアメリカ合衆国の主要8大学等と新たな大学連合を結成することとなった。

この新しいパートナーシップは、オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ、国立シンガポール大学、北京大学、カリフォルニア大学バークレー校、コペンハーゲン大学、東京大学およびエール大学が参画することが決まっており、さらにオックスフォード大学と英国の著名なもう1校が参加を検討している。メンバーシップは、当面10校に限り、3年後に地理的代表性等を考慮した会員の追加が行われる予定。

パートナーシップの正式発足までの暫定議長はイアン・チャブ、オーストラリア国立大学学長が努める。チャブ学長は、このパートナーシップが公式に発足する2006年1月まで暫定議長の職につくことになる。

会員を代表してチャブ学長は次のように述べた。「このパートナーシップは、同等の価値観、世界的な視点、将来の世界的な指導者を教育する責任を持つ選ばれた研究型大学の集まりである。

このパートナーシップは、深い協力関係になるだろう。加盟大学は、息が長く意義深い協力ができるような、深い信頼関係や相互理解をもつことになる。

また、このパートナーシップは、幅広い協力関係となるだろう。この協力によって、個々の大学だけでは成し得ないような広汎な教育・研究の可能性が開かれることとなる。

さらに、このパートナーシップは、強い影響力を持つものとなるだろう。加盟大学の質の高さについてはいうまでもない。また、これらの大学はいずれも、世界中で必要とされているような、世界的視点や異文化への理解を持つ指導者の教育を行うことで全人類に貢献する使命を負っている。これらの教育目標が、最高レベルの質と、地球規模の課題に対処するための共同研究と結びつけば、予測される範囲をはるかに超えるような成果があがるであろう。」

このパートナーシップでは、教員の交流、研究協力、学生交換、共同学位や二重学位制度、共通の指標開発などを通じて、真の世界的な研究・教育の展開が図られることとなる。

東京大学は、本年4月より国際連携本部を発足させ、「欧米とアジアの知的社会を結ぶ総

合的学術交流拠点」となることを大きな目標に掲げたところである。この度の世界トップクラスの大学連合への参加は、こうした目標に向かうための大きなステップであると考えている。これまでも参加してきた環太平洋大学連合（APRU）、東アジア研究型大学協会（AEARU）でのさらなる活動の強化とあわせ、東京大学の国際的プレゼンスの飛躍的向上を目指したいと考えている。

問い合わせ先：東京大学研究協力部国際課長 庄崎 未果

電話：03 - 5841 - 2090

Email：shozaki@adm.u-tokyo.ac.jp

（参考）

THES による大学ランキング

カリフォルニア大学バークレー校	2位
オックスフォード大学	5位
エール大学	8位
スイス連邦工科大学チューリッヒ	10位
東京大学	12位
オーストラリア国立大学	16位
北京大学	17位
国立シンガポール大学	18位
コペンハーゲン大学	63位

東京大学が世界トップクラスの大学連合に参加

東京大学

2005年7月11日世界同時発信

東京大学が、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、北アメリカのトップクラスの大学と新しい大学連合(戦略的パートナーシップ)を結成することになった。参加が決定したのは、東京大学のほか、オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、国立シンガポール大学、北京大学、カリフォルニア大学バークレー校、コペンハーゲン大学およびエール大学であり、オックスフォード大学及びイギリスの著名なもう1校が参加を検討している。

このパートナーシップは、世界トップクラスの大学が共通の教育目標と地球的課題に対処する共同研究戦略を掲げることで、これまでにない世界的な視点をもち文化的な多様性を尊重する指導者の育成を目指すものである。具体的には、教員の交流、研究協力、学生交換、共同学位や二重学位制度、共通の指標開発などを通じて、真の世界的な研究・教育の展開を図るものである。

このパートナーシップについては、すでに東京大学小宮山宏総長を含む8大学長が覚え書きに署名している。このパートナーシップが正式に発足するのは2006年1月であるが、それまでの間の暫定議長には、オーストラリア国立大学のイアン・チャブ学長が指名された。パートナーシップの取り組みの詳細については、今月25日～26日にニューヨークのエール大学クラブにて開催される担当者レベルの会合で検討される。

東京大学は、本年4月より国際連携本部を発足させ、「欧米とアジアの知的社会を結ぶ総合的学術交流拠点」となることを大きな目標に掲げたところである。この度の世界トップクラスの大学連合への参加は、こうした目標に向かうための大きなステップであると考えている。これまでも参加してきた環太平洋大学連合(APRU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)でのさらなる活動の強化とあわせ、東京大学の国際的プレゼンスの飛躍的向上を目指したいと考えている。

大学パートナーシップの学長プロフィール

ロバート・ビルゲノー (Robert J. Birgeneau) (カリフォルニア大学バークレー校)

カナダ人物理学者。トロント生まれ。1963年 トロント大学卒業(数学)。1966年 エール大学博士号取得(物理)。エール大学、オックスフォード大学で各1年勤務。1968~1975年 ベル研究所勤務。1975年、マサチューセッツ工科大学(MIT)物理学教授。1988年、MIT物理学科長。1991年、MIT理学部長。2000~2004年、トロント大学第14代学長。2004年、カリフォルニア大学バークレー校第9代学長に就任。

ジョン・フード (John Hood) (オックスフォード大学)

オークランド大学卒。同大学博士号取得(土木工学)。2004年にオックスフォード大学学長に就任。900年の大学の歴史の中で、現在のオックスフォード大学の教員ではない者が学長に就任した初めての例。オックスフォード大学学長就任前5年半はオークランド大学学長。この間、ニュージーランド学長会議会長(2000~2004年)、首相の各種諮問委員会委員、大企業のトップも歴任。大学職の前18年間はニュージーランドの大手企業フレッチャー・チャレンジ社勤務。

リチャード・レヴィン (Richard C. Levin) (エール大学)

1993年に第22代エール大学学長に就任。アイビーリーグで就任期間最長の学長。1947年サンフランシスコ生まれ。1968年、スタンフォード大学卒業(歴史)。オックスフォード大学で政治、哲学を学び、文学士取得。1974年、エール大学博士号取得。同年エール大学に勤務。学長就任前20年間は教育、研究、運営に従事。ミクロ経済、産業組織、反トラスト、石油産業、米国製造業の競争力、経済学思想史等を講義。

オラフ・キューブラー (Olaf Kübler) (スイス連邦工科大学チューリッヒ校)

カールスルーエ工科大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校(1967年学位取得)、ハイデルベルグ大学(1970年博士号取得)で理論物理学を学ぶ。1972年、スイス連邦工科大学の細胞生物学研究所に勤務。生物構造の高分解能電子顕微鏡像のコンピューター処理設備の創設。1979年、映像科学教授。ETHに医学映像の分析、ロボット・ビジョン等を行うビジョン研究所設立。1996年、研究担当副学長。1997年、スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長就任。

イアン・チャブ (Ian Chubb AO) (オーストラリア国立大学)

ゲント大学、オックスフォード大学でいくつかの学術的な賞、フェローシップを受けた後豪州に帰り、1977年よりフリンダース大学で人間生理学を教える。1986~19

90年、ウォロンゴン大学副学長。1993～1995年、モナシュ大学筆頭副学長。同時期に商業経済学部長。1995～2000年、フリンダーズ大学長。2001年よりオーストラリア国立大学長。豪州学長会議で活躍し、2000～2001年会長。現在8大学グループの長。

シー・チョーン・フォン (Shih Choon Fong) (国立シンガポール大学)

ハーバード大学博士号取得。米国ジェネラル・エレクトリック社の研究所で勤務。ブラウン大学教授。米国国立工学アカデミー外国人準会員。非直線破砕力学、コンピューターによる破砕分析等に貢献。NASA、国立オークリッジ研究所、核規制委員会等顧問。1996年、シンガポールに帰国。マテリアル研究工学研究所の初代所長。シンガポール・マテリアル研究ソサイエティ初代会長。複数の大学連合理事。APRU 会長。国の大学入学基準に関する重要な変革を答申。2003年、シンガポール再生戦略を策定。2000年より国立シンガポール大学長。

許智宏 (Xu Zhihong) (北京大学)

1965年、北京大学卒(生物学)。中国科学院上海植物生理学研究所(SIPP)で研究を続ける。1969年卒業後、SIPP にリサーチ・フェローとして勤務。1983年、同研究所副所長。1991年、所長。1988～1996年、SIPP の植物分子遺伝学研究室長。1992～2003年、中国科学院副会長。1999年、北京大学第30代校長に就任。第3世界科学アカデミーおよび中国科学院会員。北京大学およびSIPP の生命科学教授、国際植物組織培養および生命工学会会長等。研究分野は植物の生育、植物細胞培養、遺伝子操作、植物生命工学等。

リンダ・ニールソン (Linda Nielson) (コペンハーゲン大学)

1952年生まれ。1976～1979年 住宅都市問題省に勤務。1979年、コペンハーゲン大学法学部で家族法、生物学関係法(bio-law)を専攻。1993年、博士号取得。1996年、法学部教授。1989～1992年、法学研究所所長。1991～1994年、法学部学術委員会委員長。1995～2002年、大学の生命工学学際運営委員会委員。2002年よりコペンハーゲン大学長。国の児童、年金、電気、情報サービス、デンマーク反ドーピング、リサーチに関する法改正委員会等で活躍。近年、生命倫理学、生物学関係法に関する法的、政治的課題に取り組んでいる。